

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291800013		
法人名	株式会社 海愛		
事業所名	グループホーム ふくろうの森 1Fひだまりユニット		
所在地	島根県邑智郡川本町川下1319番地15		
自己評価作成日	平成28年9月25日	評価結果市町村受理日	平成28年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=329

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成28年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山々に囲まれた自然豊かな環境で四季折々に楽しみ、心が和みゆったり過ごせます。チームで話し合いを重ねてケア方針を決めており、ゆっくりコミュニケーションをとって行く中で利用者一人一人の思いを汲み取り、楽しく過ごして頂けるよう取り組んでいます。業務においては職員の得意分野を活かす事ができ、子育て中の職員が働きやすいような配慮をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の話をゆっくり聴き、思いをくみ取り、理念を意識してケアをする事に努めている。管理者は、職員の育成に力を入れて取り組み、職員全員が各委員会やイベント等の企画、準備を経験出来るように体制を作り、職員の企画力や責任感が向上するように支援している。新たに職員の誕生月の休暇取得を設け働きやすい職場作りを行ったり、記録用紙を工夫して全職員が利用者の変化や気づきを一覧表に記録し、状況に合わせた個別支援が出来るようにチームとして話し合いを行い支援に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が目のつく所に掲示しており、意識付けとして、毎朝申し送り時に理念の復唱をして共有に努めている。またその理念を活かせるよう努めている。	理念を復唱する事で全職員で共有化を図り、勉強会で話し合ったり個人目標に反映させて実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加したり、月1回地域の方のボランティアに来て頂いたりして交流を続けている。散歩に出かけたりした際には、あいさつや言葉かけといった関わりを大切にしている。	日常的に挨拶や言葉を交わし地域の人との関係を築いている。地域の草刈りや行事に積極的に参加して交流し、運動会では見物席の配慮をして貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の会合等で議題として取り上げ、認知症の理解や支援の方法を話す事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスや取り組み状況の報告を行い、意見や提案を頂いている。職員は会議録を読み、情報を共有している。	活動や利用者の状況等を報告し意見を貰っている。出された意見から避難訓練時には地域にサイレンで知らせる事や、ヒヤリハット事例を討議し改善に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議だけでなく日頃から色々と意見を頂いたり、情報を得たり、状況を伝えたりして関係を築いている。	日常的に事業所の情報を伝え、情報を貰ったり相談をする等協力関係を築いて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を尊重し、身体拘束をしないよう努めている。会議の場等で学習し、個々に対応している。日中は玄関の施錠をしていない。	研修に参加したり、職員が担当して学習する機会を作っている。スピーチロックや身体拘束をしない対応を職員間で共有し支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学ぶ機会を持ち、虐待の防止や言動にも注意を払い、変化を見過ごさないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会で学ぶ機会を持っている。成年後見制度を活用されている方もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に十分な時間を取り、不安な事等を伺いながら分かりやすく説明し、納得し信頼をして頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議への出席時等、気付きや意見を頂くようにしており、頂いた言葉は記録に残しケアに活かしている。	担当職員が家族に様子を伝え、意見や相談を記録し支援に繋げている。行事で利用者の様子を見て家族から意見を貰い「気づき」を得る事もあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会を含め、代表者は個々に職員に声をかけ、様々な意見・提案を聞き、反映できる部分は反映するよう努めている。	管理者は、職員が各委員会や運営推進会議に携われる場を作り職員の育成に努めている。代表者からの提案もあり、誕生月休暇を新設し働きやすい職場作りの工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの個性や事情に合わせ勤務を調整し、子育て世代、介護世代でも働きやすい職場の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、内部研修を計画的に実施している。話し合い等により、働きながらトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会は多いとは言えないが、研修会等を通して同業者と交流して話を聞く機会があり、サービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様に寄り添い話をし、言葉に出されない時は表情や行動から不安や要望を汲み取り、信頼を得られるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、電話等で家族の思いに耳を傾け、話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞き、今困っている事、必要としている支援を見極め、色々な面からアプローチし対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家にいるような雰囲気を作るように努め、一人ひとりと向き合い、一緒に作業をしたりドライブに出かけたり、互いに協力して同じ時間を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談したり、提案をしたりして、本人と家族との時間が持てるように関わっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にドライブに行ったり、地域行事への参加したりして、関係が途切れないように支援している。	家族の協力で毎週教会に出かける人や、時季になれば家に帰る人もあり関係継続の支援に努めている。長年馴染んできた「三江線」の廃止前に汽車に乗ろうと話合い企画をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や関係を把握し、その時の思いや場合によっては職員が間に入り、孤立せず関わり合えるような支援に努めている。が男性利用者への支援は不十分である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域行事等で会うと、家族が話して下さったり、話を聞いたりし、必要に応じて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ちょっとした時でも1対1で話せるようにし、会話の中から希望や意向を聞き出したり、表情や様子から汲み取ったりして、モニタリング等で検討している。	本人の居心地良い場所で1対1で思いを聴き意向の把握に努めている。様子を見て居室と一緒にアルバムを見たりドライブをしたり、意向を把握し本人本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等の入居時の情報や本人との会話、家族からの情報を記録し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	浮き沈みはあるが、日々の心身の様子をよく観察し、本人から話を聞き、色々やってもらいできる事を見極めている。時間ごとに記録をし、変わった事は申し送り、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングやミーティングを通してチームで話し合う機会があり、今の状態に合ったより良いケアの方針を考えている。	電話や面会時に家族の意見を聞き、ユニット会議で話し合い職員全員で情報を共有して介護計画を作成し支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	忘れる事もあるが小さな変化や気づきでも記録するようにし、職員間で話をし、実践した記録も残して情報を共有し、より良いケアができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で話をし、外出や病院受診の付き添い等、その時々状況に応じた対応ができるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人がどのように地域で暮らして来られたか把握し、地域に密着した生活が継続できるように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とはいつでも相談が可能で連携体制ができています。、本人と家族に希望を確認し、行き慣れた病院で状態に合った医療の継続ができるようにしている。	入居時に利用者、家族と話し合い、24時間連携の病院から訪問診察を受け支援している。受診時には同行し家族と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職がおり、健康チェックの他に職員が少しでも気になる所は報告し、利用者の状態把握、情報の共有、受診のフォロー等をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より関係づくりに努めており、入院時には早期の退院に向けて、情報交換や相談を行っている。また利用者が生活しやすいように退院後の生活を考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人判断が難しい場合は、家族の方と話し合い、事業所でできる事を説明している。また、方針を共有して共に支えていけるようにしている。	指針があり事業所で出来る事を家族に説明し共有して支援している。状況に合わせ医師、家族、事業所が話し合い入院に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得てAEDの使用法、救急蘇生法等の訓練を毎年行い、実践できるようにしている。また、急変や事故発生時に備えてのマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練は行っている。が、夜間は職員が少ないため、年1回地域の方と一緒に夜間想定訓練を行い、体制の確認をしている。地震、水害時の訓練はできていない。	地域や消防署の参加があり夜間を想定した避難訓練を実施している。緊急時にとっさの判断が出来るように事業所内で訓練を増やし振り返りを行っている。	さらに地震や水害時の対策について取り組まれることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	近過ぎず遠過ぎず、一人ひとりに合った言葉かけや、その時の思いや行動を尊重するよう心がけている。が、トイレの誘導時等、誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや対応も時々見られる。	利用者の目線に合わせ、その人に合った言葉かけや対応をする事に努めている。利用者同士が互いに傷つけ合うことのないようにさりげない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人差はあるが、普段からコミュニケーションをとり、心を開いてもらえるように努め、思いや希望を表してもらえるようにしている。「~しましょう」ではなく、なるべく問いかけ、どうされたいか聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中、一人ひとりの体調やペースに合わせた対応に努めている。が、生活時間等、職員の都合で決まる事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択、お化粧、白髪染め等、言葉かけや支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒におやつを作ったり、食器拭き等片付けもして頂いている。が、一緒に準備や食事はできていない。	庭で収穫した野菜や希望を取り入れた献立を立て、出来る人は下ごしらえや盛り付けをしている。クッキング企画で利用者が楽しめる場を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録し、把握するようにしている。体調に応じて食事の量や形態に気を付けている。脱水や体重過多にならないよう、個々に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後言葉かけをし、本人の力に応じたやり方で口腔ケアをしている。状態によって義歯の洗浄方法等も工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録から個々の排泄パターンや時間を見て、早めの声かけを行っている。	排泄のパターンや利用者の状況、習慣を把握し支援している。利用者のちょっとした動作をみてさりげなく声をかけトイレでの排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはバナナやヨーグルトを提供し、水分の摂取量にも気を付けている。ほぼ毎日体操を行い、便秘の予防・改善に努めている。下剤の服用も医師の指示で行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合になりがちである。入浴が難しい方もおられるが、言葉かけを工夫して、個々に沿った支援で入ってもらえるようにしている。	声かけを工夫して誘い、入浴中には会話を引き出し楽しい雰囲気を作り支援している。同じ職員が対応し洗髪が出来るようになった人もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等に応じて休息できるようにしている。日中の運動や、夜間はお部屋で気の合う方とお茶をされる方もあり、ゆっくり過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイルでいつでも確認することができる。薬を把握し、体調を見ながら医師や看護師と相談して服薬支援している。確実な服薬のために職員間でのチェック体制ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが好きな事、得意な事を把握し、1日が楽しく笑顔が見られるよう、裁縫やカラオケ、ドライブや買い物に出かける等、気分転換支援をしている。個々の役割や日課を決め、ほぼ毎日行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望により外気浴を行ったり、一緒に歩いて出かけたり、時々ドライブに出かけたりはしているが、支援が十分にできているとは言えない。	日常的に散歩や外気浴等を行い、年間行事や誕生日ドライブ等を計画し外出する機会を作っている。「自宅で栗拾いをしたい」との希望で出かけたり、希望の場所に出かけられるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力を考え、少額でもお金を所持している方はおられるが、ほとんどが事業所管理である。お金を自分で使われる事はほぼなく、買い物支援は不十分である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを利用者様と書き、家族へ送った。電話をしたいという訴えは少ないが、心配事がある時等、家族へ電話する事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除で施設内は清潔を保つ事ができている。季節感を出すために花を飾ったり、壁飾りをしたり、室温等も含め環境作りを工夫している。居心地良さを考え、混乱を招くような物はあまり置かないようにしている。	季節の花や利用者の作品が飾ってある。ソファで寛いだり、賑やかな場所を好まない利用者には一人で過ごせる場を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者とは過ごせるよう、席の配置やテーブルやソファの配置を工夫している。また、1人になれるよう離れた所にもベンチを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には馴染みの物を置いたり、写真等を貼ったりしている。かえってそれが混乱を招くような方にはシンプルな物にしている。また、清潔への配慮もしている。	使い慣れた家具や写真を利用者に合わせて配置し居心地よく過ごせるようにしている。居室の畳のスペースに利用者同士が集まりお茶会をする事もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の好きな事、できる事を考え、日課のようにして頂いている。トイレの表示や廊下の手すり等安全に配慮し、自立した生活が送れるよう支援している。		